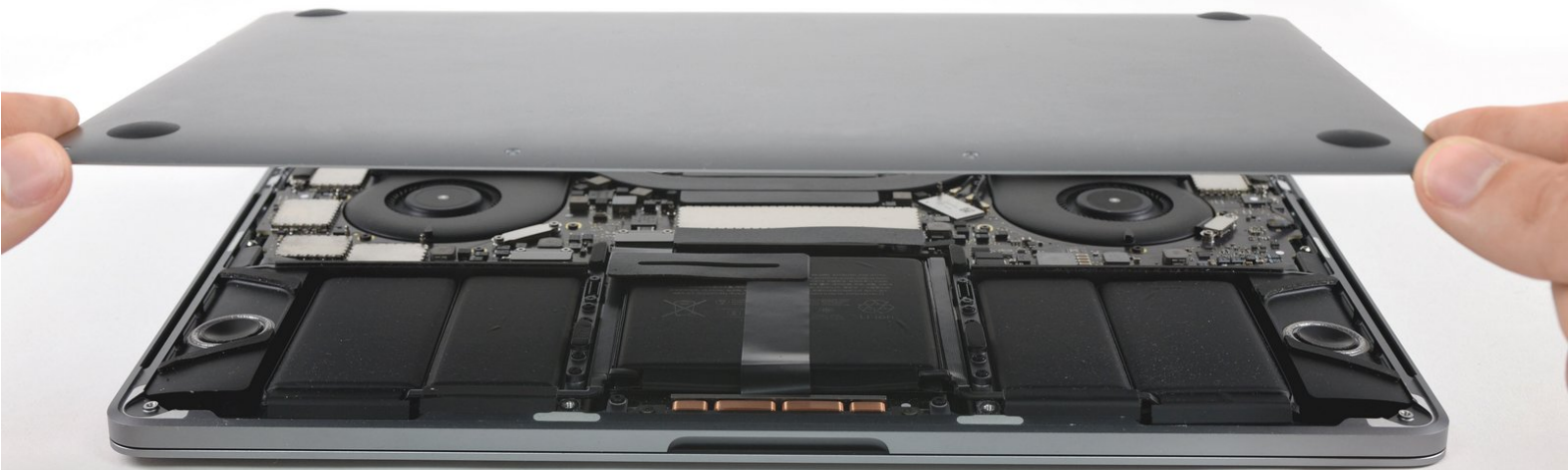




MacBook Pro 13" Touch Bar 2017 下部ケースの交換

下側カバーを取り出せば、全ての修理への入り口となります。...

作成者: Jeff Suovanen



はじめに

下側カバーを取り出せば、全ての修理への入り口となります。

この手順を始める前に、安全のため、**MacBook Pro**のバッテリー残量を25%以下まで放電してください。



ツール:

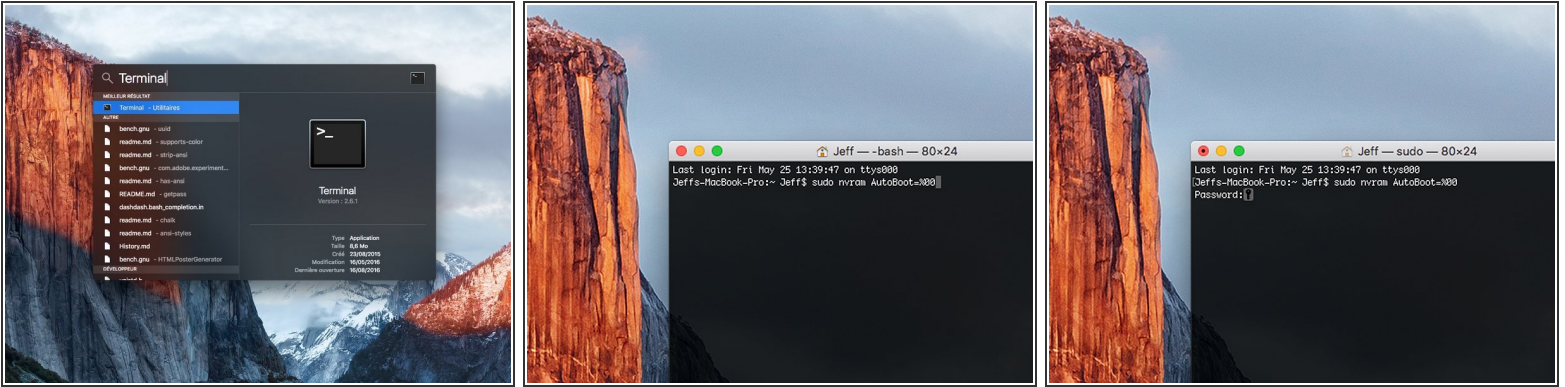
- ハンドル付き吸盤 (1)
- iFixit開口用ピック(6枚セット) (1)
- P5 ペンタローブネジ用ドライバー (Retina MacBook Pro/Air用) (1)



部品:

- MacBook Pro Retina (Late 2016 to Mid 2017) プラスチック製フットパッド (1)

手順 1 — Auto Bootを無効化する



i この手順を開始する前に、Macの自動起動機能を無効にする必要があります。蓋を開くと、Macの自動起動によって分解中に誤って起動される場合があります。[この手順に従う](#)か、以下の簡略化された指示に従って自動起動を無効にします。このコマンドは全てのMacに応答するわけではありません。

- Macを起動し、ターミナルを開きます。
- 以下のコマンドをターミナルにコピー(または正確にタイプ)します。
 - **sudo nvram AutoBoot=%00**
- **[return]**キーを押します。パスワードを求められたら、管理者パスワードを入力し、**[return]**キーを再度押します。補足: **[return]**キーは **↵** や **"enter"** として印字されている場合もあります。

i これで、誤って電源が入ることなく、安全にMacの電源を切り、底面カバーを開くことができます。

★ 修理が完了し、完全に組み上げられた際には、以下のコマンドで再度自動起動を有効化してください。

- **sudo nvram AutoBoot=%03**

手順 2 — ペンタローブネジを外します



⚠ 作業を始める前に、MacBookの電源を切ります。ディスプレイを閉めて、デバイスを裏返します。

- P5ペンタローブドライバーを使って、下部ケースに固定された6本のネジを外します。

- 6.2 mmネジ—2本

- 3.4 mmネジ—4本

★ この作業中、各ネジを紛失しないように保管してください。作業後はデバイスにダメージを与えないように、装着されていた位置に取り付けてください。

手順 3 — 吸盤カップを使って隙間を作ります



- 吸盤ハンドルをMacBook Proの正面中央付近の下部ケース上に装着します。
- 吸盤ハンドルを持ち上げて、下部ケースと筐体の間にわずかな隙間を作ります。

手順 4 — クリップを外します



- 下部ケースと筐体の間にできたスペースに開口ピックの先端を挿入します。
- 一番近いコーナー周辺に開口ピックをスライドして、ケースの片側サイド全体を移動させます。
- ① この作業によって、筐体と下部ケースを固定している隠れたクリップの一つが外れます。クリップが外れる音が聞こえて感覚があるはずです。

手順 5



- 反対側のサイドでも前の手順を繰り返します。開口ピックを下部ケースの下にスライドさせて、2 番目のクリップを外します。

手順 6



- 開口ピックを下部ケースの正面側端の下、中央部分にある2本のネジの一方付近に再び差し込みます。
- ピックをしっかりと持って捻り、筐体と下部ケースを固定している3番目のクリップを外します。
- この手順を繰り返して、中央部分にある2本のネジのうち、もう一方のネジ付近にも差し込んで、4番目のクリップを外します。

手順 7

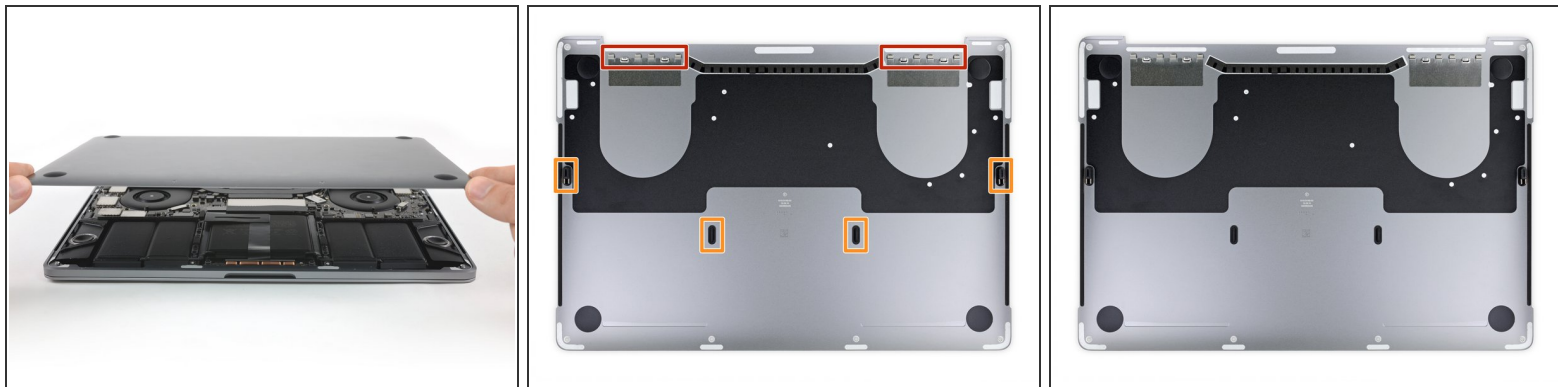


- MacBookの正面側に向けて下部ケースをしっかりと引き抜きます。(ヒンジから外します) ケースを固定している最後のクリップが外れます。
- まず一方のコーナーを引っ張り、それから反対側のコーナーを引っ張ります。

⚠ サイドに引っ張りますー引き上げないでください。

ⓘ この作業にはかなりの力が必要です。

手順 8 — 下部ケースを外します。



- 下部ケースを取り出します。

下部ケースを再装着するには

- ディスプレイヒンジ付近の[クリップの位置を揃えます](#)。カバーをヒンジ側に押し込みます。クリップが装着されると、それ以上スライドできなくなります。
- スライドしてクリップが完全に装着して、下部ケースが正しく揃ったら、下部ケースをしっかりと押させて、隠れた4つのクリップも装着します。カチッと音がして装着感があるはずです。

デバイスを再組み立てする際は、これらの手順を逆の順番に従って作業を進めてください。